

第47回水の作文コンクール 審査評（優秀賞）

賞	題 名 学校名・学年 氏 名	審査評	
地方審査 優秀賞	一服の水 志学館中等部 2年 宮脇 愛	日頃からお茶を点てる筆者が、お茶に欠かせない「水」に着目し、水の大切さについて自分なりに考えていく。水は生きていくために必要な「命の水」だけでなく、心に安らぎをもたらす「一服の水」でもあることを教えてくれる作文である。	導入における茶道の描写は、静かな中に響く水音が巧みに表現され、水資源の問題へと話題が広がる構成は秀逸である。災害や環境問題にも幅広く話題を展開し、終末で未来を願う作者の思いがよく伝わる作品である。題名も工夫が見られる。
地方審査 優秀賞	水と共に生きる鹿児島島の暮らし 志学館中等部 2年 大野 耕太郎	水と共に生きる暮らしについて、筆者の住む鹿児島島の文化や産業と関連付けながら自分なりに考えていく。祖父母や家族との会話を通して、命のつながりには水が必要であること、備えが重要であることを教えてくれる作文である。	自身の体験を踏まえながら、湧き水、農業用水路、豪雨災害とさまざまな視点から水の大切さを訴え、考えを丁寧にまとめている作品である。鹿児島島という郷土に焦点を絞ったことで読者への共感を抱かせている。
地方審査 優秀賞	安全な水が使えるとはどういうことか 志学館中等部 2年 金子 千沙	「水がある生活は当たり前」と思っていた筆者が調べ学習を行うなかで自分の生活を見つめ直し感謝の気持ちをもっていく。題名「安全な水が使えるということはどういうことか」は、読む人も考えるきっかけとなる作文である。	水資源に関する世界の課題と、鹿児島の人々の暮らしに密接に関わっている水の大切さについて、調べたり聞いたりしたこと等を丁寧に書いている。水への感謝という気持ちが一貫して描かれ、作者の思いがよく伝わってくる。

第47回水の作文コンクール 審査評（入選）

賞	題 名 学校名・学年 氏 名	審査評	
地方審査 入 選	「水の大切さについて」 志学館中等部 2年 宮下 葵乙	水の「大切さ」や「使い方」について、人間社会を持続可能にするための考えを述べている。その際、子供から大人まで一人一人ができること、行政や企業、学校教育の在り方など社会全体を見つめ直し、必要性を訴える作文となっている。	水不足に関する世界の様々な課題を明らかにし、日本と比較して、自分や社会にできることを論理的にまとめた作品である。未来の世界に安全な水を引き継ぎたいという筆者の思いがよく伝わってくる。
地方審査 入 選	水の惑星に生きる 志学館中等部 1年 田中 豪明	新聞記事や災害のニュースから水の大切さに気付き、詳しく調べるなかで水道や下水道について理解を深めていく。特に、外国での人道支援についての取組は、自分たちができていることを考えるきっかけにもなる作文となっている。	さまざまな情報を基に関連付けながら、水資源の大切さをあらゆる角度からまとめた作品である。調べたことや分かったことを、自身の生活と関連付け具体的に主張をまとめることで、より自分らしい作品に仕上がりと思われる。
地方審査 入 選	安全な水道水 志学館中等部 1年 上木原 悠羽	安心・安全な水道水について、実際に見学した河頭浄水場の仕組みや役割を分かりやすく述べている。同時に、関わる人や魚への感謝の気持ちから「水を大切に使う」という意欲が伝わってくる内容となっている。	自身の経験を題材として、水の貴重さを訴えているため説得力がある。また、些細な気付きから自己の考えをまとめることもできている。経験・課題・提案と明確な段落構成をもって叙述することで、さらに論理的な作品になると思われる。
地方審査 入 選	他人事じゃない水質汚染 霧島市立牧之原中学校 2年 福岡 田明	水質汚染が引き起こす問題や、改善するためにできることについて、調べて考えたことを分かりやすく述べている。環境問題を自分事として捉え、「美しく綺麗な水に戻すことができるのも人間」と訴える一文が印象的である。	水質汚染について、野生生物や人体に与える悪影響などの課題をあげ、SDGsの目標とも関連させながら、広く自分の考えをまとめている。論点を絞ることで、より説得力の増す作品になると思われる。
地方審査 入 選	水が見る過去と未来 霧島市立牧之原中学校 3年 久木田 愛心	自分と水の関わりについて、過去（小学生）と現在の体験を時系列で述べるなかで、継続した取組や筆者の成長が伝わってくる作文である。そこから未来を見つめ、今後の取組を更に充実させることを期待したい。	題名に工夫がなされ、情景描写や心情描写にも巧みな叙述が見られる。論文の情報を引用したり、農業体験から自身の考えを述べたり、課題を自分事として捉え、水を守りたいという作者の思いが伝わる作品である。